

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	異文化コミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2学年		学期及び曜時限	通年	教室名	新館2F,3F
担当教員	菱田 伊駒	実務経験と その関連資格	大阪大学在学中、鷺田清一が提唱、設立した「臨床哲学」の実践に影響を受け、「一般社団法人いしばし commons」を設立、池田市石橋地域をフィールドに大学と地域をつなぐ社会活動を展開する。			
《科目目標》						
<p>コミュニケーションデザイン(=専門家的知識を持つ者と持たない者、利害や立場の異なる人びと、そのあいだをつなぐコミュニケーション回路を構想・設計すること)の概念を理解し(目標1)、          普段のコミュニケーションに活かすことができるようになる(目標2)。          授業に参加する留学生との交流を通じて、異なるバックグラウンドを持つ相手とのコミュニケーションを取るうえでの積極性を身につける(目標3)。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>【評価方法】講義:70%(出席50%、レポート20%)          アメリカ研修:30%(アメリカ研修の事前準備と現地での参加度20%、振り返りレポート10%)          【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書 2177)						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に示す課題を実施しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
<p>グローバル化が進む現代社会において、外国人を含む幅広い年齢層の患者さまと接する機会がこれからますます増えます。考え方、価値観、文化など異なる他者とのコミュニケーションをとるときに、異文化コミュニケーションでの学びを是非役立ててほしいと思います。          授業には適宜、大阪大学で学ぶ留学生をゲストに招き、交流を行います。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	対話を成り立たせる「セーフティ」の概念を理解する(1回目)	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること	
		各コマにおける授業予定	主に教育の分野で活用されている「哲学対話」についての講義を行ったあと、実際に対話ワークショップを行う。また、身体的なセーフティについて理解を深めるため、体を動かしながらワークショップを行う			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	留学生の留学経験を理解することを通じて、多文化共生の難しさを理解する	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること	
		各コマにおける授業予定	大阪大学交換留学生による留学体験に関するプレゼンテーションを聞いたうえで、小グループに分かれてディスカッションを行う			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会モデルと医療モデルの違いを理解する	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること	
		各コマにおける授業予定	校外学習、大学訪問(大阪大学)、キャンパスライフ健康支援・相談センター 望月直人准教授によるレクチャー			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	大学内における合理的配慮の取組を理解する	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること	
		各コマにおける授業予定	校外学習、大学訪問(大阪大学)、キャンパスライフ健康支援・相談センター 望月直人准教授によるレクチャー			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを巡る倫理、異なるもの同士が出会った際に起こる様々なコンフリクトについて、哲学の観点から理解する(1回目)	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること	
		各コマにおける授業予定	大阪大学で哲学研究をしている研究者をゲストに招き、ディスカッションを行った後、対話ワークを行う			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 演劇的手法、対話的手法を用いたコミュニケーション実践について理解する	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること
	各コマにおける授業予定	大阪大学ELSIセンター 鈴木径一郎特任助教を招き、レクチャーを行った後、対話的手法を通じて授業全体の狙いについての理解を深める。		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 対話を成り立たせる「セーフティ」の概念を理解する(2回目)	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること
	各コマにおける授業予定	主に教育の分野で活用されている「哲学対話」についての講義を行ったあと、実際に対話ワークショップを行う		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 ケアを巡る倫理、異なるもの同士が出会った際に起こる様々なコンフリクトについて、哲学の観点から理解する(2回目)	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること
	各コマにおける授業予定	大阪大学で哲学研究をしている研究者をゲストに招き、ディスカッションを行った後、対話ワークを行う		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 8回を通して各自が得た異文化コミュニケーションについての学びを共有、相互理解を深める	資料 プロジェクター	授業終了後に、振り返りワークシートを活用して授業の学びを振り返ること
	各コマにおける授業予定	「哲学対話」の手法を用いたグループワークを行う。海外での哲学対話の実践例を映像を交えながら紹介する		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 異文化コミュニケーションまとめ		—
	各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験(レポート課題)		